

新宿区教育委員会会議録

令和5年第3回臨時会

令和5年7月19日

新宿区教育委員会

令和5年第3回新宿区教育委員会臨時会

日 時 令和5年7月19日(水)

開会 午後 2時00分

閉会 午後 4時00分

場 所 新宿区役所6階第4委員会室

出席者

新宿区教育委員会

教 育 長	針 谷 弘 志	委 員	古 笛 恵 子
委 員	星 野 洋	委 員	年 綱 和 代

欠席者

教育長職務代理者	山 下 浩一郎	委 員	鴨 川 明 子
----------	---------	-----	---------

説明のため出席した者の職氏名

次 長	遠 山 竜 多	教育調整課長	齊 藤 正 之
教育指導課長	坂 元 竜 二	総括指導主事	北 中 啓 勝
指導主事	鈴 木 智 子	教科用図書 検討委員会委員	馬 場 園 和 也
音楽科調査委員会 委員長	百 合 野 壽 郎	国語科調査委員会 委員長	井 口 美 由 紀
算数科調査委員会 委員長	早 藤 基 代 孝	体育科調査委員会 委員長	牧 田 健 一

書記

教 育 調 整 課 査 査 主	林 竜 佑	教 育 調 整 課 係	大 原 颯 人
-----------------	-------	-------------	---------

議事日程

協 議

- 1 令和6年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について

◎ 開 会

○教育長 ただいまから令和5年新宿区教育委員会第3回臨時会を開会いたします。

本日の会議には、山下教育長職務代理者、鴨川委員が欠席しておりますが、定足数を満たしています。

本日の会議録の署名者は、年綱委員にお願いいたします。

◎ 協議1 令和6年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について

○教育長 本日は、議事はございません。

前回に引き続き、「協議1 令和6年度使用新宿区立小学校教科用図書の採択について」の協議を行います。

本日は、音楽、国語、書写、算数、保健の各種目について協議を行います。

また、本日は、教育委員会会議規則第13条の規定に基づき、教科用図書を専門的に調査した教科用図書調査委員会の各教科委員長に出席していただいております。

次に、本日の協議の進め方についてです。

初めに、専門的に調査検討を行った教科用図書調査委員会の各教科委員長から、種目ごとに、指導要領の中での目標、教科の特性等、調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについて説明を受け、質疑を行います。

その後、教科用図書検討委員会の検討結果について検討委員会委員から説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

なお、本日は、山下教育長職務代理者、鴨川委員が欠席しておりますので、本日絞り込みを行った後、次回の教育委員会臨時会において、本日欠席の各委員から御意見を伺いたいと思います。

また、本日協議する各種目の教科用図書については、8月4日に開催する予定の教育委員会定例会で採択を行うことを予定しています。

それでは、まず音楽について御説明ください。

なお、この後の説明につきましては、着座でお願いをいたします。

○音楽科調査委員会委員長 音楽科調査委員会委員長です。よろしくお願いたします。

それでは、音楽科の調査結果について御報告させていただきます。

まず、音楽における目標といたしましては、「表現及び鑑賞の活動を通して、音楽的な見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の音や音楽と豊かに関わる資質・能力を次のとおり育成すること」を目指しています。

「曲想と音楽の構造などとの関わりについて理解するとともに、表したい音楽表現をするために必要な技能を身につけるようにする。」こと、また、「音楽表現を工夫することや、音楽を味わって聴くことができるようにする。」こと、さらに、「音楽活動の楽しさを体験することを通して、音楽を愛好する心情と音楽に対する感性を育むとともに、音楽に親しむ態度を養い、豊かな情操を培う。」ということにあります。

調査内容につきましては、教科書の特徴をより明確にするために、表現の内容であるとか、鑑賞教材ごとの観点、また、判断力、思考力、表現力、知識に関する資質・能力、他教科との関連、発展的な内容、また、それに加えて、国旗・国歌の扱いや、防災や自然災害等の扱い、オリンピック・パラリンピックの扱い、固定的な性別役割分担意識に関する記述等を求められております。

さらに、今回、学習指導要領により、音楽的の主体的・対話的で深い学び、アクティブラーニングの視点として、主体的な学びの視点、体を動かす活動を取り入れるなどして、児童が音楽のよさを感じ取れるようにし、音楽によって喚起されるイメージや気持ちの変化に気づかせること、対話的な学びの視点として、音楽表現をしたり、音楽を聴いたりする過程において、音楽的な見方・考え方を働かせて、互いに気づいたことや感じたことを交流したり、共有したり、共感し合ったりすること、深い学びの視点として、児童が音や音楽に出会う場面を大切にし、音楽的な見方・考え方を働かせて、一人一人が音楽と一体的に関わること、その際、聴き取ったことを言葉や体の動きなどで表現、企画、関連づけることにより、音楽との一体感、要素の働きなどを共有することにあります。

そういった観点をもとに、今回、音楽科調査委員会におきましては、教育芸術社と教育出版、2者の教科書につきまして調査をいたしました。

お手元の資料の2枚目から御覧ください。

2枚目に教育出版、その裏面に教育芸術社の調査結果が載っております。

全体的に両者とも本内容に適している内容ではございますが、先ほど申したように、子どもたちが、お互いに気づいたり、それを気づかせ合ったり、共有し合ったり、共感し合ったりといった観点から考えますと、教育出版のほうが、表記的なもの、挿絵や図、その他において子どもたちのイメージーションを発しやすいというように調査委員会では検討をいたし

ました。

そういった結果、使用上の便宜等も考慮すると、教育出版の方が教育芸術社よりも子どもたちの音楽性を育むには適切ではないかという結果に至っております。

以上でございます。

○教育長

説明が終わりましたので、御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

○年綱委員 質問させていただきます。

学校訪問などで伺いますと、CDを使ったり、映像を使ったりしている授業を見させていただくこともあるのですが、教育出版と教育芸術社の教科書CDはどのような内容になっていたのでしょうか。

○音楽科調査委員会委員長 教科書のみの調査ですので、CDの中身については今回は調査しておりません。

○年綱委員 分かりました。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○古笛委員 どちらの教科書も、本当によくできているな、面白いなと思いながら拝見させていただきました。

先ほどの御報告で、曲想のイメージを持ちやすいという御意見があったかと思うのですが、例えば、どこを見たらそれが分かるのでしょうか。

○音楽科調査委員会委員長 お手元の資料「表記・表現」の欄に書いてあるのですが、「読みやすい表現」や、「図・挿絵・写真等」、そういったものを見ていただくと、実際は触れることができない、見ることができない、聴くことができないものに対して、教科書の中できか味わうことができないイメージというものを子どもたちが感じるができるという面では、教育出版のほうが良いのではないかという結論でございます。

例えば、教育出版の2年生の教科書の28ページと76ページをご覧ください。

指くぐりや指またぎなど、そういった音楽的な手法について説明されている部分がよいということでございます。

○古笛委員 教育出版の2年生の28ページに「かっこう」という教材があつて、教育芸術社でも2年生の22ページに「かっこう」が出てきます。

どちらも指の使い方があるが教育出版のほう指使いが分かりやすい、そのような理解でよろしいでしょうか。

○音楽科調査委員会委員長 はい。

○古笛委員 ありがとうございます。

○教育長 よろしいでしょうか。

ほかにいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

〔発言する者なし〕

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、次に、国語についての御説明をお願いいたします。

○国語科調査委員会委員長 国語について御説明申し上げます。国語科調査委員会委員長市谷小学校長井口美由紀です。よろしくお願い申し上げます。

国語科の目標としては、「言葉による見方・考え方を働かせ、言語活動を通して、国語で正確に理解し適切に表現する資質・能力を育成することを目指す」として、3点挙げられています。

1つ目が、「日常生活に必要な国語について、その特質を理解し適切に使うことができるようにする。」、2つ目が、「日常生活における人との関わりの中で伝え合う力を高め、思考力や想像力を養う。」、3つ目が、「言葉がもつよさを認識するとともに、言語感覚を養い、国語の大切さを自覚し、国語を尊重してその能力の向上を図る態度を養う。」としています。

言葉の持つよさとしては、言葉によって自分の考えを形成したり、新しい考えを生み出したりすること、言葉から様々なことを感じたり、感じたことを言葉にしたりすることで心を豊かにすること、言葉を通じて人や社会と関わり、自他の存在について理解を深めたりすることとしています。

「言語感覚」という言葉が出てくるのですが、ここでは、豊かということは、「正誤」、正しい、誤り、「適否」、適していると否、それから、「美醜」といったことが挙げられています。

言語感覚は、自分の気持ち、今の状態、また、情景を描写するときに、よりぴったりとするものを子どもたちが自分で選んでいく。そういった力を養うということです。

各発行者とも、こうしたことを踏まえ、構成されております。

それでは、東京書籍、「新編 新しい 国語」からお話をいたします。

総合評価はBです。

特徴としては、デジタルノートの作り方、オンライン意見交換会など、1人1台端末を意

識した内容が取り上げられていました。

構成面においても、3年生で初めて学習するローマ字について、その後の学年でもローマ字の表として巻末に掲載されています。タブレットのローマ字入力に配慮したものと思われます。

また、各学年の「情報の扉」では、見開きで分かりやすく、その学年で押さえるべき事項が解説されており、学習後にも復習で使うことができます。

続いて、教育出版、「ひろがる言葉 小学国語」です。

総合評価はAです。

特徴としては、読み物教材の幅が広く、1年生から「スイミー」や「お手がみ」など、ストーリー性の高いものが入っています。その分、分量はやや多めになります。

また、4年生で点字を取り上げているのですが、その見本ページが入っており、実際の点字に児童が直接触れることができます。

目次部分で、上下巻の分冊であっても1年間で学ぶことが明記されていて、この1年間で児童が何を学習するのかが分かりやすく表示されています。

全学年が分冊になっており、児童にとっては重さの負担が少ないと言えます。

最後に、光村図書、「国語」です。

総合評価はAです。

特徴としては、2年生以上で「国語の学びを見わたそう」というページが巻頭にあり、どうやって国語を学んでいくのか、この学年でどのような内容を学ぶのか、前学年ではどのようなことを学んだのかを見渡すことができます。系統性も明示されています。

また、読み物教材では、学習者と同じ年頃の子どもの主人公となっている物語が高学年の最初の読み物教材として取られており、児童が共感的に学習を進められそうだと思います。

また、語彙を増やすという観点からは、巻末の言葉の宝箱も児童の発達段階に応じており、学習するときに活用しやすいと考えられます。

光村図書には思考ツールについての記載もございます。

国語については以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いをいたします。

○年綱委員 先生に質問させていただきます。

タブレットを使った授業が始まり、子どもたちが、手書きではなくて、活字を使った作品

を作るようになったと思うのですが、その場合に国語科では、書き方や構成についてはどのように教科書を使って御指導なさっているのでしょうか。

○国語科調査委員会委員長 タブレット端末を活用した授業は低学年から実際に行っておりますが、アナログの部分も大切にしております。ですから、低学年においては、手で書くことがメインになっています。

ただ、児童の特性に応じて、成長していく過程で、どうしても鉛筆では升に収まらないといった子どもには、タブレットに使ったデジタルノートの使い方等を指導しています。

○教育長 それでは、1点御質問させていただきます。

報告書の光村図書の中で「合理的配慮がなされ、どの子どもにとっても使いやすい」というような表現があるのですが、この「合理的配慮」というのはどのような意味合いでお書きになったのかというのを教えていただければと思います。

○国語科調査委員会委員長 まず、イラストに車椅子や外国籍の子どもが描かれています。また、読む教材としては、子どものマークと色が各学年の目次の上に明示されています。それは色も共通ですし、マークも共通です。「読む」、「書く」、「言葉」などのマークと色が共通で明示してあるので、子どもにとっては非常に分かりやすい。文字だけではなく、そういったマークも、どんな子どもにとっても分かりやすいという意味での合理的配慮ということです。

○教育長 分かりました。ありがとうございます。

○古笛委員 調査委員会調査でもそうなのですが、学校調査では圧倒的に光村図書の評価が高く、C評価がゼロというのは、全教科の中でも光村図書の国語の教科書くらいしかありませんでした。光村図書の国語の教科書にCがつかない理由というのは、先生方から見ていかがでしょうか。

○国語科調査委員会委員長 光村図書の教科書を使い慣れているという点もあるかと思います。また光村図書の読み物教材は、同じものをずっと掲載されているわけではなく、割と入れ替わりもあるのですが、先生方が学校調査でも選ばれているということは、学習の仕方を明示したページが必ずその学習材の後についている。そういった意味で、どのような指導者であっても、また子どもも同じように、こういうように学習の手引きに沿って学習していけばよいのかということや、この教材で自分がどのような力を獲得すればよいのかということが分かりますし、教える側にも明示されているということが評価されている理由ではないかと推察します。

○教育長 よろしいですか。

ほかにいかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、次に、書写について御説明をお願いいたします。

○国語科調査委員会委員長 それでは、書写についての説明をいたします。

学習指導要領の中では、書写に関する事項として、低学年で、「姿勢」や「筆記具の持ち方」、「筆順に従って丁寧に書く」、「点画相互の接し方」、「長短や方向などに注意して、文字を正しく書く」、中学年では、「形を整えて書く」、「漢字や仮名の大きさ、配列に注意して書くこと」、「毛筆を使用して点画の書き方への理解を深め、筆圧などに注意して書くこと」、そして、高学年では、用紙と文字の大きさのバランス、それから、書く速さへの意識、毛筆における穂先の動きと点画のつながりへの意識、また、「目的に応じて筆記具を選び、その特徴を生かして書くこと」とされています。

では、東京書籍、「新編 新しい 書写」からです。

総合評価はAとしました。

「書写のかぎ」が示されていて、大事なポイントについて、指導者にとっても学習者にとっても分かりやすく示されています。

また、書写の学び方についても巻頭に示されており、児童が学習過程を見通すことができます。

1つの学習活動が見開きで構成されているのも、使いやすい点だと考えられます。

次に、教育出版、「小学 書写」です。

総合評価はBです。

1年生の鉛筆の持ち方では、段階的に写真で示されており、児童が無理なく正しく持つことができるように練習することができます。

書く時間、目当てがしっかり明示されており、細かな注意事項にも触れていますが、その分、1ページ当たりの情報量がとても多くなっています。

最後に、光村図書、「書写」です。

総合評価はAです。

日常生活を意識した教材や挿絵が多く、例えば、1年生であれば、教室内の文字に注目させたり、給食の挿絵などがあります。

また、1年生と3年生には、それぞれスタートブックとして、硬筆や毛筆の基本について

詳しく載せてあるのも特徴です。

この教科書のメインキャラクターの猫の動きで、止め、払いなどを表しているのも、低学年児童にも分かりやすいと思われます。

また、表紙絵が特徴的で、学校生活に関わるものであり、猫たちが成長していくものになっていて、調査委員会の中では話題になりました。

書写に関しては以上です。

○教育長 説明が終わりました。御意見、御質問がありましたらお願いをいたします。

○年綱委員 先生に質問させていただきます。

こちらも教師用教科書にはCDがついていて、毛筆の苦手な先生も多い中で、すごく分かりやすい指導ができる教材があると思うのですが、この3者を御覧になって、どこの発行者が一番分かりやすかったですか。

○国語科調査委員会委員長 書写の筆の動きについては、どの発行者も甲乙つけ難いものだと思います。筆の動きの解説等があることで、非常に教員の助けになると思います。

○年綱委員 ありがとうございます。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

○古笛委員 国語と書写とで違う発行者でも教える先生として特に支障はないのか、同じほうが教えやすいなど、関連はあるのでしょうか。

○国語科調査委員会委員長 同じ教科書のほうが圧倒的に教えやすいです。

漢字等が出てくる順番が発行者によって異なりますし、特に高学年になると、書写といっても、生活の中での横書きの資料や、パンフレット等の資料も教科書の中には入っていますので、そういった国語の中でのつながりということを考えますと、同じ発行者のほうが使いやすいと考えられます。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、次に、算数について御説明をお願いします。

○算数科調査委員会委員長 算数科調査委員会委員長牛込伸之小学校長早藤基代孝です。どうぞよろしくお願いいたします。

算数科の目標は、「数学的な見方・考え方を働かせ、数学的活動を通して、数学的に考える資質・能力」を3つの視点で育成していくという目標を掲げています。

1つ目は、「知識及び技能」です。2つ目は、「思考力、判断力、表現力等」です。3つ

目は、「学びに向かう力、人間性等」です。この3つによって数学的に考える資質・能力を育成していくというのが、算数科の目標になっています。

算数科の特性としては、1つ目の知識及び技能というところで、そういうものを獲得しながら、それを生かして、思考力、判断力、表現力を育てる。この思考力、判断力、表現力が算数科で最も育てたい力ということになっています。

具体的に言うと、見通しを持ち、筋道立てて考える力、統合的・発展的に考える力、簡潔明瞭・的確に目的に応じて柔軟に表現する力、このような力が育つのが算数科の特性だと思っています。

そして、その得られた知識・技能、今申し上げたようなもろもろの力を使って学習することで、楽しさ、よさに気づき、そして、振り返って、それらを生活や次の学習へ活用していくというように、継続して積み上げていくという教科の特性を持っています。

6者と非常に多くの発行者から見本本が提示されていますが、6者を調査するに当たって、見通しを持って筋道立てて考える力や、統合的・発展的に考える力、簡潔明瞭・的確に目的に応じて柔軟に表現する力が育つような教科書であるかどうかという視点や、それを支える知識・技能の定着のための問題の難易度、問題の分量、教師側の教えやすさというようなところを非常に大事にしていきました。

また、振り返りや連続性についても気を付けました。算数という教科は、連続性をもって、積み上げていく教科ですので、振り返りを大事にするような教科書の構成をしているかという点や、それらに関連して単元配置なども見ていきました。

全体的なこととしては、視覚的にどうかというところで、文字や構成、教科書の大きさ、重さについても調査をしました。算数の授業は毎日ありますので、日々子どもがランドセルに入れて登校するということも考えつつ、また、学年の発達段階に応じた文字の大きさやページの使い方についても気をつけて見ていきました。

加えて、個別最適な学びと協働的な学びということの一体的な充実がうたわれていますが、タブレット端末を子どもたちが持ち帰り、それを利用して獲得した知識や技能を定着させるという場面で使ったり、あるいは、授業の中で考える力をさらに深める、深い学びにつなげるような端末の使い方という意味で、個別最適な学びではどうかという点、それから、個の解決だけでなく、協働的な学びというのを算数は非常に大事にしているため、個で解決したものを子ども同士が学び合う、協働的な学びの場面でそれぞれ6者の教科書は使いやすいかという視点でも見てまいりました。

それでは、6者の報告をさせていただきます。

報告書は全部で7ページにわたりますので、ポイントを中心にお話をさせていただきます。まず、1つ目の発行者は、東京書籍です。

東京書籍は、現在、新宿区で使用されている発行者です。

部分的な改訂もありましたが、今回は指導要領の内容は同じでしたので、教科書の配列、単元の配列等は同じような構成になっています。ページの配分などについては、前回に比べて少しページが増減しているところも見られました。

しかし、子どもたちが現在使用しており、また、教師もこちらの電子教科書なども利用して教えているため、教えやすさが継承された教科書になっていると考えています。

具体的には、2ページにわたる東京書籍の報告書をもって代えさせていただきます。

前回同様、特に学習の内容のつながりが分かりやすい構成になっており、非常に振り返りやすいという印象です。

子どもたちの考え方についても、教科書の中にイラストで多様な考えが例示されていて、対話的な学び・協働的な学びで深い学びにつなげていくという教科書の構成になっています。

それから、SDGsや実生活に関連のある内容も随所に多く入っていきまして、統計データを用いた問題も含まれています。

今申し上げたところが、前回に引き続き、また、プラスして感じた部分であります。

総合評価はAとしてあります。

続きまして2者目の大日本図書です。

大日本図書は、全学年上下に分かれていないため、1冊の分厚い教科書になっています。見本本を御覧いただきますと、1年生から分厚い教科書を年間1冊ということになっております。

このよさは、教科書1冊に1年間分の内容が入っているということで、算数が積み上げ教科であるという面から、2学期、3学期になったときに、1学期にどんな学習をしたかを振り返ることができるというところです。しかし、非常に分厚いために、教科書を毎日持ってきて、持って帰るというところで、これが電子教科書に代わってくれば、重さの課題はなくなると思いますが、現状では、厚さ、重さについて課題を感じる場所があります。

中身は非常によいところが多くて、プログラミング学習にも大変力を入れているという点も、この教科書の特徴として感じます。

また、問題解決学習をいち早く取り入れた発行者でもありますので、問題解決の形の進め

方がよくできている教科書であるとも考えます。

総合評価はBです。

続いて3者目、学校図書です。

学校図書は、B5判の横長になっています。

大きいことによって、広げると、その上でいろいろな操作をしたり、書き込んだりしやすいというメリットがあります。

また、横にグレーのラインで、今どういう学習のステップを踏んでいるかという項目を設け、子どもが主体的に学んでいくことができるようになっています。紙面に広さがある分、そのメリットを生かしている教科書になっているかと思います。

加えて、この発行者独特の「考え方モンスター」というキャラクターを設定していて、各教科書の最初のほうにキャラクターが出ておまして、それが随所で活躍していきます。

学習に時間がかかる子どもにとっては、漫画・ゲームのキャラクターによって学習意欲を誘発するという意味で、非常に面白いアイデアだと思ったのですが、大人である教師にとっては、そのキャラクターの違いが覚えきれず、見てもなかなか区別がつかないというところで、なかなかついていけない可能性があるということが、調査委員の中で意見として出されました。

総合評価はCです。

続いて4者目、教育出版です。

教育出版は、ここも数学的な思考というのを非常に大事にする発行者で、問題解決学習によって「数学的な見方・考え方」を身につける教科書として、非常によくできていると思います。

この発行者は、4コマ漫画をいろいろなところに入れていきます。

これも子どもたちの意欲を喚起する取っ掛けになるという意味で、4コマ漫画によって難しい内容を分かりやすく表現しようと努力をされていることはよいと感じました。4コマに学習内容が細かく詰め込まれているため、難しい部分もあるかなという意見もありましたが、算数は習熟度の差が非常に大きくなる教科でもありますので、そういう意味で下の方の層の児童に興味を持たせるという工夫がなされていたと思います。

総合評価はBです。

続いて5者目、啓林館です。

この発行者は、以前と比較していろいろな層の子どもたちに対応できる問題を扱うように

なっているという印象です。

先ほどほかの資料で、練習問題の問題数や、どのような問題が掲載されているかというものがありましたので、そちらも御覧いただくと、何かを活用して解くような問題が非常に多い教科書であるということがお分かりになるかと思います。文字の間隔や文字数という観点から全体的な表記・表現については課題も挙げられましたが、発展的に考える能力を伸ばしたいということを感じる教科書でありました。

また、もう一つ特徴的だったのは、1年生教科書において、6者あるうちの啓林館以外の5者は、ブロックの表面が黄色・裏面が白という、今、子どもたちと教員が使っているブロックと同じなのですが、啓林館だけはそのブロックの真ん中にアレイという丸が書いてあるので、子どもたちが現実に持っているブロックとの違いがあります。啓林館をもし利用するとしたら、そのようなブロックを改めて用意して、それで指導することが必要になってくるのではないかと感じました。

総合評価はBです。

最後、日本文教出版です。

こちらの教科書はかなりすっきりして、東京書籍に近いレイアウトに感じました。

プログラミング学習もきちんと入っていたり、非常にスマートにできた教科書であろうかと思います。

一方で、スマートであるがゆえに、特徴が今使っている東京書籍と近く、使い慣れている単元の順番等を考えると、現在使っている東京書籍からの引き続きのほうが教えやすい。また、子どもも学びやすいと感じたということが意見として出されました。

総合評価はBです。

長くなりましたが、以上です。

○**教育長** 6者の説明をいただきました。ありがとうございました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

○**星野委員** 東京書籍は分冊で、それ以外は全部合冊ですね。

○**算数科調査委員会委員長** 先ほどの説明の中で触れなかった発行者が多かったため、分冊についての説明をさせていただきます。

前回の令和2年度から使用する教科書の採択の際は、1年生の入門期の1単元、2単元だけ分冊にするということを東京書籍が始めました。

それに引き続き、今回は、同じように1年生の入門期の分冊に取り組んだ発行者が、大日本図書、啓林館でA4判の分冊を導入しました。そして、日本文教出版も、B5版で分冊を導入しましたので、1年の入門期については4者が分冊を導入いたしました。

また、学校図書が、6年生の最後で、中学校へつながる単元について分冊を導入しました。しかしながら、分冊は入門期の1年生だからこそ意味があるのではないかという意見もございました。

○教育長 よろしいですか。

○星野委員 はい。

○教育長 ほかに御質問、いかがでしょうか。

○古笛委員 東京書籍の1年生の最初の分冊は、それ以降のもの大きさが違うのですが、それは今教えている先生方にとって気になるということはないのでしょうか。

○算数科調査委員会委員長 最初の分冊について、A4版で広いため非常に書きやすく、おはじきやブロックを置いたりしやすいです。分冊での学習が終わったら、今度は両方持つてくるわけではなく、2のほうのB5の教科書のみを持つてくることになりますので、大きさが違うからといって特に学習に支障があるということはありません。

○教育長 よろしいですか。

○古笛委員 はい。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

1つ質問させていただきます。

調査報告書に124ページと振ってある資料があるかと思えます。この「調査研究の総括表」で、各単元の練習問題の数が記載されていまして、一番少ないと2,802、一番多いと3,952ということです。練習問題は教科書だけではないですが、そのあたりはどのような評価になるのでしょうか。

○算数科調査委員会委員長 東京書籍算数は習熟度別で学習していますが、問題をたくさん解ける子、サポートしないとなかなか解けない子の差があるというところかというと、問題数が多すぎても少なすぎても対応が難しくなります。そのような意味では、東京書籍の2,868というのは、6者の中では標準的かと思えます。

問題数が多すぎると少し厳しいかなという児童もいるでしょうし、また、発展的な問題を非常に多く入れていると、下のほうの層の児童には厳しいかなというところかというと、東京書籍が難易度、量的にもちょうどよいと考えます。

○教育長 ありがとうございます。

ほかに御質問はよろしいでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 では、ほかに御意見、御質問がなければ、次に、保健について御説明をお願いいたします。

○体育科調査委員会委員長 体育科調査委員会委員長、富久小学校長牧田です。よろしく願います。

それでは、体育科の目標についてお話をさせていただきたいと思います。

簡単に言うと、体育科の目標は、心と体を一体として捉えて考えること、健康の保持増進、そして、体力の向上、生涯スポーツ、将来にわたって運動に親しむ資質・能力、これを目標としております。

その中で、今回、教科書は、運動領域ではなく保健領域についての教科書の調査をさせていただきました。

体育科の特性として、今、お話したとおり、運動領域と保健領域に分かれておりまして、保健領域について話をさせていただきます。

3年生で年間4時間、4年生が年間4時間、5年生において8時間、6年生において8時間の授業時数となっております。非常に短い時間で対応していくという特性があります。

その中で、体力向上、健康の保持増進のための知識を身につけさせていくというところで

3年生については「健康な生活」、4年生については「体の発育・発達」。これは思春期に向けての子どもから大人にかけての発育・発達についての性差についてまで学習をしていきます。5年生で「心の健康」が4時間、あと4時間が「けがの防止」、そして、6年生が「病気の予防」という形で単元が構成されております。

これから調査委員会の各教科書の報告に入らせていただきたいと思います。

今回、調査を進めるに当たって、各発行者、本当によくできているというのが感想になります。

その中で、各発行者とも資料が非常に充実している。いろいろなことが資料の中に入っているわけです。さらに、二次元コードも採用されている中で、調査委員会としては、そこをメインではなく、主体的・対話的で深い学びをその1時間で完結できるかどうか、心と体を一体として捉えた保健の教科書になっているか、ここを中心に調査を進めて評価をつけよう

と考えました。

では、各発行者ごとの評価についてお話をさせていただきたいと思います。

まず、東京書籍ですが、1時間の流れがしっかりと記載されており、子どもにとって、1単位時間の流れが分かりやすく構成されています。

また、表記・表現等では、性別、年齢、国籍、障害、病気などに関わる姿が写真やイラストなどで示されており、協力を重んずる態度を養うことができるように配慮されていると思っています。

特に、他教科との関連についても、カリキュラム・マネジメントという視点からよくできているということで、評価はBとさせていただいております。

次に、大修館書店です。

大修館書店については、心と体を一体として捉える上でとても大切な運動領域である体ほぐしの運動の表記が、3、4、5、6年生を通してしっかりと表記されている点について、好感を持っております。

体育科全体の学習内容を意識できるように作成されています。

児童が書き込みを行う際の時間の個人差を、調べる時間を活用することで埋めることが期待できるような構成になっていると思っています。

また、教科書が、3・4年生、5・6年生で2分冊になっておりますが、教科書の最初に、タブレットを使って楽しく学ぼうというページがあり、これを活用することでタブレットの活用も進んでいくのではないかと考えています。

全体的に、「心と体を一体として捉え」というところを中心に教科書が構成されている点を評価して、Aとさせていただきました。

次に、光文書院です。

光文書院については、特に表紙を見ていただけると分かるのですが、子どもにとっては非常に親しみやすい表紙になっています。全体的に色遣いがとても柔らかくて、挿絵等も見やすいというところに好感を持ちました。

保健の授業の一つの特性として、教科書1冊で1時間単元を完結することができるということがポイントになっていると思っております。

特に、光文書院の教科書は、この1冊で子どもたちが楽しんで単元を学習することができるかなと感じています。

「感情」、「社会性」、「思考力」の具体的な姿をイラストで書かれており、また、色の

囲みをはっきりしていて分かりやすいため、子どもたちにとってはよいのかなと思っています。

指導要領の改訂を踏まえて、児童が課題を捉えて、自分事として問題解決的な学習を展開することができるように構成されている等を考えた上で、評価はAとさせていただきます。

次に、学研です。

教科書の冒頭に、「あなたはどんなことを学習してみたいですか。あなただけの教科書を作っていきましょう。」という記載があります。これについても、学習の見通し等、子どもたちが持ちやすいようになっていると考えております。

また、1時間の内容ごとに振り返る、調べる、話し合う、学びを生かすと、学習の進め方が示されており、1時間の流れが非常に分かりやすくなっている。

自分だけの教科書を作っていこうというのは、子どもにとっては非常に主体的な学びにつながるのではないかと。また、振り返りがあるということで深い学びにつながるであろうということで、評価はBとさせていただきました。

次に、文教社です。

文教社についても資料がとても多くありまして、この資料については非常に好感を持てると思います。

また、学習の仕方が示されており、学習の進め方が子どもにとっては分かりやすいと考えております。

評価はCです。

最後に、大日本図書です。

1時間の学習の流れが「課題をつかむ→課題解決→まとめ、活用して深める」で、課題解決的な学習になっている。構成が工夫されており、学習のまとめとしては非常に分かりやすいということで、評価はCとさせていただきました。

報告は以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御意見、御質問がありましたら、お願いいたします。

○星野委員 今、GIGAスクール構想の中で、タブレット等を積極的に活用するという方針になっていると思うのですが、小児科医の中では、長過ぎるメディア接触は子どもの健康を害するということが分かっております。

その中で、各発行者のメディア接触に対する対応というのはかなりバラバラなのですが、文部科学省が求めるその辺りの内容であったり、どの辺りまで害があるということを示したほうがよいのか、示さないほうがよいのかの考え方を教えていただきたいです。

○**体育科調査委員会委員長** タブレットを使って学習を進めるということは学校でやっておりますが、スマートフォンやタブレットを学習以外で使っている時間が長くなるというのは非常によくないという認識は学校の中ではありません。

教科書の中には、スマートフォンやタブレット等、ゲームなどの依存症についてまで資料として扱っている教科書も数者ありました。

依存症について、これは学校としては確実にやっていく必要があります、現在も、各学校でスマートフォンやタブレットの長時間の使用はやめましょうということは指導していると私は認識しております。

○**教育長** よろしいでしょうか。

○**星野委員** はい。

○**教育長** ほかにいかがでしょうか。

○**古笛委員** 保健の教科書は、読んでいてすごく面白いなと思いました。

難しいのは、各発行者それぞれ特徴があって、いろいろな情報を提供してくれていて、ほかの教科以上に前回の採択のときと違うなというところを感じました。

質問なのですが、報告書の292ページに「調査研究の総括表」ということで、それぞれ取り扱っているページ数などを記載していただいているのですが、どの教科書はどのような点についてたくさん書いているとか、こういう点について特徴があるとか、そういった点はございましたでしょうか。

○**体育科調査委員会委員長** ページ数については、各発行者でばらつきがありますが、そのページ数以上に、「心と体を一体として捉え」というところで視点を持って調査してまいりました。各発行者それぞれ重点を置いているというところは感じてはおりますが、今回、評価ではそこまで反映はしていないと考えていただければよいのではないかと思います。

○**古笛委員** もう一点、コロナ禍を経験して、保健の教科書変わった点はあるのでしょうか。

○**体育科調査委員会委員長** 教科書がコロナ禍で変わった点というのは、ウイルスと細菌の違いのような内容で新型コロナウイルスを扱っていた教科書が数者ありました。

これまでは、新型コロナウイルスはございませんでしたので、感染症についてはインフルエンザ等について触れられているところはあったのですが、今回、新型コロナウイルスとい

うことで扱った発行者が数者ありました。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

1つ質問をさせてください。

最初に、授業の時間数について、3年生・4年生が4時間、5年生・6年生が8時間という御説明をいただきました。授業の内容では、心と体の発達や病気の予防、喫煙等のいろいろな分野があって、この時間で教え切るのは、先生方も大変だろうと思うのですが、その部分における工夫ですとか、このほかにもいろいろな時間を使ってさりげなく伝えているといったことがありましたら、教えていただければと思います。

○体育科調査委員会委員長 ご指摘のとおり、この資料を全て教え切るには、求められている時間数の中では、非常に難しいです。

しかし、学校では保健指導ということで、養護教諭等が連携をして、例えば、身体測定の後であったり、歯の健康診断の後であったり、そういったところで保健の内容と関連して、内容について深めていく、自分自身の健康や体ということで認識を深めていくような対応をしています。

今後、教科書の内容が学習指導要領の改訂に伴って、SDGsやジェンダー等の話題についてより触れていくという方向性になった場合は、さらに道徳であったりとか、特別活動も含めてカリキュラムマネジメントをしていく必要は出てくるだろうとは考えております。

○教育長 ありがとうございます。

ほかにいかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御意見、御質問がなければ、これで指導要領の中での目標、評価の特性等調査委員会における調査の内容、その他評価を決定する上での主な議論などについての質疑を終了といたします。

ここで教科用図書調査委員会の各教科委員長には御退席をいただきます。委員長の皆様、大変ありがとうございました。

[教科用図書調査委員会の各教科委員長退席]

○教育長 続きまして、教科用図書検討委員会の検討結果について、検討委員会委員から種目ごとに説明を受け、質疑を行い、採択の対象となる教科用図書の絞り込みを行います。

それでは、まず音楽について説明をお願いいたします。

○統括指導主事 それでは、音楽についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

教育出版、教育芸術社ともに、29校中10校がA評価でございました。

調査委員会の調査結果は、教育出版が総合評価でAでした。

検討委員会では、教育出版をA評価としております。

その理由・意見として、全体を通して優しい雰囲気や挿絵や迫力ある写真等が扱われているので、曲想のイメージを持ちやすく、児童の表現力の向上につながる。

全体的に見やすく分かりやすいため、児童自ら教科書を活用して練習や復習ができるなどの意見が挙げられていました。

また、検討委員会では、教育芸術社に関する意見として、学習内容や授業の進め方等が順序よく具体的に表記されているなどがよい点として挙げられていました。

最終的に検討委員会では、学校調査・調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が多く、調査委員会評価でA評価であった教育出版をAと評価いたしました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○教育長 御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○年綱委員 私は両方見させていただきまして、特にリコーダーと鍵盤ハーモニカのところを重点的に見させていただきました。

教育芸術社は、リコーダーは実物大で分かりやすいと思いました。教育出版のほうは、鍵盤ハーモニカがより実物に近くて、1年生の子どもたちがぱっと開いたときに、すぐ鍵盤が目前にあるので、これは使いやすいだろうと思いました。

楽器の使い方、いろいろ出会う楽器も最後に書かれていて、こうやって演奏するんだというのが1年生には分かりやすいと思いました。

リコーダーに戻りますが、リコーダーのドレミファソラシドと上に上がっていく段階において、子どもたちにとってはすごくやりにくく分かりづらいので、先生から幾ら授業を受けていてもそこが理解できない子たちが多いのですが、教育出版のほうは、音階ごとに練習曲が入っていて、難しくなっていくところも練習しやすいと思いました。

鑑賞の曲についても、教育出版のほうが多くて、よいのではないかなと思っています。

その辺りを考えて、私は教育出版が学校の現場で使われたら子どもたちが楽器に親しむことができるのではないかと思いましたので、教育出版がよいと思います。

○古笛委員 私も最終的には教育出版がよいと思いました。

現在の教科書から発行者が変わるのでどうなのかと思ったのですが、実際に使っている学校での調査において教育出版と教育芸術社との評価が同じということは、特に変えるということでは問題はないのではないのかということがうかがわれました。

それから、先ほど調査委員会の先生に御説明いただいたとおり、教育出版のほうは、よりイメージしやすいとか、分かりやすいと現場の先生が受け止めていらっしゃることを鑑みまして、教育出版にいたしました。

○星野委員 私も、教育出版を選ばせていただきました。

私は演奏のほうは全く駄目なのですが、聴く側の人間として見てみると、曲の中で横に分かりやすい絵があったり、ダイナミックな写真があったりして、現場を想像しやすい構造になっていますので、その辺りはよいと思いました。

また、手話があったと思うのですが、音楽に合わせて手話をやるというのは、福祉の面等も考えてよいことではないかと思いました。

○教育長 私から発言させていただきます。

音楽の教科書ということで、両者とも本当に音を楽しむといえますか、表紙からしてわくわくするような表紙を作っていただいて、挿絵もそれに基づいて楽しい感じで作られています。

教育出版を私は推させていただきます。

見やすく分かりやすいということや、楽器の演奏などの場面でも、本当に大きくて効果的な写真やイラストがたくさん使われており、苦手な子たちも、こことここを押さえるということが一目で分かりやすくなっていると感じたところでございます。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。音楽については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、教育出版発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

次に、国語について説明をお願いいたします。

○統括指導主事 それでは、国語についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

A評価が最も多かったのは光村図書で、29校中16校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、教育出版と光村図書が総合評価でAでした。

検討委員会では、光村図書をA評価としました。

その理由・意見として、合理的配慮がなされ、どの子にとっても使いやすい教科書になっている。学習の仕方・流れが明示してあるので、経験の浅い教員や国語を苦手とする教員にとっても使いやすいなどの意見が挙げられていました。

また、検討委員会では、教育出版に対する意見として、幅広いジャンルから読み物教材が選ばれている、表記が工夫されているなどがよい点として挙げられていました。

最終的に、検討委員会として学校調査・調査委員会調査の結果などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が多く、調査委員会評価でA評価であった光村図書をAと評価いたしました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いをいたします。

○古笛委員 どの教科書もそうなのですが、例えば光村図書だと「本の世界を広げよう」ということで、最後のほうにこういう本読むとよいですよというページが載っていて、すごく自分自身も参考になったのですが、教科書によってお薦めの本というのは違うのでしょうか。ある程度何か決まったルールなどがあるのでしょうか。

○統括指導主事 検討委員会で紹介されている本を全て比較しているわけではないですが、各発行者で異なる作品を紹介している場合もあれば、同じ作品を紹介している場合もあるかと思えます。

学年ごとの図書を広げ、子どもたちが読書活動に関心を持つことで、掲載されている作品との関連や、より読みを広げるような作品を各発行者が選択して掲載されているところとなります。

○教育長 よろしいですか。

○古笛委員 はい、大丈夫です。

○教育長 ほかに御質問いかがでしょうか。

[発言する者なし]

○**教育長** 御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○**年綱委員** 私は光村図書がよいと思いました。

なぜかという、国語を学んでいく上での展開について、「問いをもとう」、「目標」、「ふりかえろう」というのが上の学年ですが、低学年には、「よくきいて、はなそう」「読もう」、「たいせつ」、「ふりかえる」という形式で取り組み方が養われているからです。それが学年が上がるに従って、自分で考えられるようになっていくという、6年間のつながりが私は積み重ねとしてとても大事だと思うので、光村図書はそういう意味で優れているのではないかと思い、私は光村図書を推薦したいと思います。

○**古笛委員** 私も国語については光村図書がよいと思いました。

先ほど調査委員会の先生に御質問させていただいたとおり、評価が調査委員会も学校調査も検討委員会も一致しているということで、特に学校調査の中でCが1個もつかないというのは、それはすごいことなんだろうと思いました。

先ほど、慣れているというところもあります、ということだったのですが、慣れ親しんでいる教科書を使うということは、やはりすごく教えやすくよいのだろうと思います。

ただ、先入観を持ってはいけないと思い、持ち帰って、全部読んできました。そうすると、確かに非常に面白くて、押しつけがましくなく、でも、教科書に沿ってきちんと一歩ずつ前に進んでいったら力がつくようになっていっているなということを改めて感じましたので、光村図書がよいと考えました。

○**星野委員** 私も、国語は光村図書がよいと思いました。

一つは、年綱委員もおっしゃっていましたが、教えたり、勉強したりするに当たっての流れが教科書の中であって、その流れに沿ってやっていくと力がついていくというように感じました。

もう一つは、見やすさです。フォントや行間、文字の大きさ等がとても見やすく、ほかの教科書も見やすいものもあったのですが、光村図書の場合は、読み物と学習部分の区別がしっかりできていて、その辺りがとても見やすいと思いました。

そうすることで、光村図書にいたしました。

○**教育長** それでは、私からも発言させていただきます。

私も結論といたしまして、光村図書がよいと思いました。

学習の仕方・流れが明示されており、「見通しをもとう」から始まって、まず、「問いを

もとう」ということで、何を考えていくかの方向性を指し示して、そこから「とらえようーふかめよう」というような形に続く。終わったところで、最後に「ふりかえろう」というのがもう一回ありまして、自分が学習してきたことをもう一回振り返ることが繰り返し行われるので、経験の浅い先生方にもそうですし、子どもたちにとってもすごく分かりやすい流れなのかなと考えました。

また、見通しの見せ方といますか、視覚的に捉えやすいような構成といますか、そういった割りつけをしていると感じましたので、光村図書としました。

以上でございます。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。国語については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 ありがとうございます。

それでは、次に、書写について説明をお願いいたします。

○統括指導主事 それでは、書写についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

最もA評価が多かったのは光村図書で、29校中17校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、東京書籍と光村図書が総合評価でAでした。

検討委員会では、光村図書をA評価としました。

その理由・意見として、他教科や日常生活に生かせる内容が取り上げられていて、文字を書くだけでなく、書きたいと思わせる内容であり、「考えよう」、「確かめよう」、「生かそう」の学習過程が全学年で共通しているなどの意見が挙げられていました。

また、検討委員会では、東京書籍に関する意見として、単元ごとに見開きで示されていて、指導者にとっても使いやすいなどがよい点として挙げられていました。

最終的に検討委員会として、学校調査・調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会評価でA評価であった光村図書をAと評価しました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

[発言する者なし]

○**教育長** 特に質問はないようですので、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員から御意見を確認したいと思います。

○**年綱委員** 私は光村図書がよいと思いました。

その理由は、国語の教科書とタイアップされているというところで、3年生の手紙の書き方だったり、4年生のリーフレットの書き方だったり、パソコンを使って活字で書くというのも作品として扱われていまして、子どもたちがきちんとしたものを書くときに、どのように書いたらよいかということが学べると思いました。書写だけではなく、そのような一つの書式を作るための書き方がこの書写の教科書には書いてあるということで、私はそれはとても大切なことだと思います。

書道、硬筆以外にも、そういったことをこれから子どもたちは学んでいかなければいけないと思いますので、光村図書がよいと思いました。

○**古笛委員** 私も光村図書がよいと思いました。

先ほど御質問させていただいたとおり、国語との関連という意味で、同じ教科書のほうが教えやすいという意見は、非常に大事なことだろうと思いました。

また、光村図書の教科書を読んでいると、アイヌのことが出てきたり、SDGsのことが出てきたりということで、ただ書くということ以外にもう少し話題を広げている部分も、勉強になるなと思いました。

表紙についても、調査委員会からも意見が出ていたのですが、書写に関してはチャレンジングといいますか、猫がだんだん成長していくというのは確かに面白いなと思い、こういうことから書写が好きになってくれたらよいなとも思いました。

○**星野委員** 書写に関しましても、私は光村図書を推薦いたします。

各発行者それぞれ見ていると特徴があるというか、面白いところがあって、私も子どもの頃ですが、書道を少しやったものですから、毛筆の運び方、はねとか止めとか、そういうものに関しては、教育出版や東京書籍もよいと思いました。

ただ、全体の構成とか、国語の教科書とのリンクということを考えますと、やはり光村図書が一番使いやすいのではないかと思いますので、光村図書にいたしました。

以上です。

○**教育長** ありがとうございます。

私も意見を述べさせていただきます。

私も結論としては光村図書ですが、各発行者とも表紙、挿絵など、とても楽しく工夫されていると感じました。

特に、止めや払い、はねなどと、そこに連動している挿絵を見ると、様々な動物や人が、体全体で止める、はねる、払うの形を表していて、体感できるように作られているなど感じました。

先ほどからありましたが、光村図書は、今回猫を大きく中心に取り上げているということで、教科書としてよい意味で少し驚きました。

光村図書の作り方としまして、「考えよう→たしかめよう→生かそう」という過程が捉えられていて、子どもたちにとっても捉えやすいのではないかと思います。

それから、縦書き・横書きや、手紙・はがき・ポスターということで、日常の場面やほかの分野でも活用できるような取組もされているということもありまして、光村図書にさせていただきます。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。書写については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、光村図書発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○**教育長** それでは、そのように進めたいと思います。

次に、算数について説明をお願いいたします。

○**統括指導主事** それでは、算数についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

A評価が最も多かったのは東京書籍で、29校中18校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、東京書籍が総合評価でAでした。

検討委員会では、東京書籍をA評価としました。

その理由・意見として、どの学年でも学習のつながりが分かりやすい構成となっていて、いつどこで学習したことが使えるのかが振り返りやすい、友達の考えのよさを自分の考えと照らし合わせて考えを深めるところがよいなどの意見が挙げられていました。

また、検討委員会では、大日本図書に関する意見として、トピック教材は児童が話し合っ
て問題を解決していきたくするような内容である、日本文教出版に関する意見として、算数の楽しさやよさが感じられるような教科書であるなどがよい点として挙げられていました。

最終的に、検討委員会として学校調査・調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を

確認しながら総合的に判断した結果、学校評価でA評価が最も多く、調査委員会評価でA評価であった東京書籍をAと評価しました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

○年綱委員 算数というと、計算や応用問題、図形などという時代の私なのですが、今は、数値から見た数学的な考えから生活に結びつけるというような指導になっていると感じたのですが、そういう指導に変わってきているのでしょうか。

○統括指導主事 生活と関連づけて算数、数学を考えるというのは、小学校、中学校いずれも大事にしているところです。

小学校に関しては、特に学んだことを生活の中とどう関連づけるかといったことは、実際の指導でも大変大事にしていますし、各発行者の教科書もそれを意識した作りとなっております。

○教育長 ほかにいかがですか。

○古笛委員 算数については、習熟度別に学習するときに、それぞれ教科書の使い方は何か違いがあるのでしょうか。

○統括指導主事 基本的には、教科書を使うということがベースとなりますが、習熟の状況に応じて、例えば基本のコースで学んでいる子はまた違った問題を準備することもありますし、進んでいるコース、より活用・応用の問題を子どもたちに別に準備して行うこともあります。

また、各発行者の教科書の作りを見ますと、今回、二次元コードの先までは詳しく見ていないのですが、問題が幾つか掲載されておりまして、それを活用することも実際の指導場面ではあるかと思います。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御質問ないようですので、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員から御意見をいただきたいと思っております。

○年綱委員 私は、採択するに当たって、全発行者の2桁の割り算を比べさせていただきました。

つまづいている子にどのようにして理解してもらおうのかを考えたときに、各発行者の中で、大きくする、小さくする、引くとさらっと書いてあるところもあったのですが、大き過ぎな

い、引けない、まだ大きい、引けない、小さ過ぎた、もう引けないというように書いてあった東京書籍が、私はすごく分かりやすかったです。

家で親が教えるときも、この教科書があれば子どもと一緒に考えることができるなということが一つの理由です。

また、子どもも、家に帰って自分で勉強しようと思ったときに、とても見やすく、つまずくところを自分でクリアできるのではないかと思いました。

さらに、東京書籍がよいと思った点は、学校の中で習熟度別で、進んでいる子、普通の子、もうちょっと頑張ろうという、大体3クラスに分けて算数をやっているのですが、同じ教科書を使って、どの子も自分の習熟度に合わせて学ぶことができる。できる子はどんどんやっでいいよと、ちょっと分からないな、困ったなという子はここでやっでいこうということがこの教科書で学ぶことができるなと私は思いました。

習熟度別ですが、どの子もこの東京書籍の教科書を使って考えようという意欲が湧いてくる。そして、それが生活の中に生かされるという内容だったのではないかと思い、私は東京書籍がよいと思いました。

○古笛委員 私も結論として東京書籍がよいと思いました。

今使っていて、学校評価がすごくよいということは、とても使い勝手がよいと現場の先生が受け止めているということで、内容もそれほど変わっていないということであれば、変えなくてよいのではないかというところではあります。

ただ一点だけ、東京書籍は、後から出てくる保健の教科書は肌の色が違うお友達、髪の色が違うお友達などいろいろなお友達が登場しているのですが、算数に関しては、他発行者の教科書と比べると、そういったお友達がもう少し登場してきてもよいのになとは思いました。

それから、先ほど調査委員会の御報告をいただいたとおり、分量的に問題の数なども適度だということも、習熟度別に学習する算数の教科書としてはよいのかなと思いました。

○星野委員 私も東京書籍を選びました。

ほかの委員もおっしゃっていましたが、算数、数学というのは、意外と日常生活の中では使われないようだが、こんなところでも使えるよみたいな表現がありましたので、とてもよいかと思ったのと、教科書を読んでいくと自然に問題が解けてくる流れができていたと思います。

問題数が割と少なめで、その分だけスペースが多くありまして、特に算数は、問題を解くに当たって、書き込むことが重要だと思いますので、書き込むスペースが多い教科書という

のは使いやすいのではないかと思います。

ただ、算数を一生懸命勉強している児童にとっては、簡単な問題が多いかなと思ったのですが、二次元コードのリンク先に少し難しめの問題が入っていたりで、レベルの高い児童もそれらの問題に取り組むことができると思いましたが、私は東京書籍にしました。

以上です。

○教育長 それでは、私からも発言させていただきます。

私も東京書籍にしました。

学習のつながりが分かりやすい構成となっているということは、いつでも振り返ることができる構成がされているということで、つまづくまでは行かないまでも、前に似たような内容を学んだなということで振り返りやすいと思いました。

また、全ての答えを載せるというわけではなく、主体的に学習が進められるような構成となっていることや、友達と自分の考えを照らし合わせるといったことで、さらに深く考えていくことができるのではないかと思います。

単元が終わったところで、できるようになったこと、次に考えてみたいこと、という記述があることで、今まで習ってきたところをしっかりと確認しつつ、次のステップは何が出てくるのかな、チャレンジしようかな、というような、また次の新しい単元に向かって、あるいは発展的な問題などに向かって、挑戦的な気持ちを持つことができる仕組みも作っていただいているというところで、東京書籍にさせていただきました。

それでは、今までの協議内容の確認をしたいと思います。算数については、本日の協議を踏まえ、皆様の総意として、東京書籍発行の教科用図書を、採択の対象となる教科用図書の候補とするということによろしいでしょうか。

[異議なしの発言]

○教育長 それでは、そのように進めさせていただきます。

次に、保健についての説明をお願いいたします。

○統括指導主事 それでは、保健についての調査検討内容の説明を行います。

まず、学校調査の結果についてです。

A評価が多かったのは東京書籍と学研で、29校中10校がA評価でした。

調査委員会の調査結果は、大修館書店と光文書院が総合評価でAでした。

検討委員会では、東京書籍をA評価としました。

その理由・意見として、各章において、4つのステップでの構成が統一されており、毎時

間同じ構成のため学びやすい。性の多様性についての記載、障害者理解に関する表記、悩み相談先の記載等があり、新宿区の実態に合っているなどの意見が挙げられていました。

また、検討委員会では、大修館書店に関する意見として、心と体を一体として捉えることを意識している、光文書院に関する意見として、児童が課題を捉えて自分ごととし、問題解決的な学習を展開することができるような構成になっているなどがよい点として挙げられていました。

最終的に検討委員会として、学校調査・調査委員会調査の報告などを踏まえて、教科書を確認しながら総合的に判断した結果、学校調査でA評価の多かった東京書籍をAと評価しました。

以上です。

○教育長 説明が終わりました。

御質問がありましたら、お願いいたします。

1つだけ質問させていただければと思います。

保健は、学校調査も含めて、調査委員会と検討委員会の結果でそれぞれ評価が異なっているのですが、特別な要因があれば、教えていただければと思います。

○統括指導主事 まず、調査委員会調査では、例えば、大修館書店は学習指導要領の心と体を一体として捉えるというところを強く意識しており、体育を専門にしている先生方からは高い評価を受けておりました。

また、光文書院は、今使っているため、子どもたちが慣れているということもあり、また非常に親しみやすいイラストのため、使いやすいのではないかという評価を受けておりました。

一方で、検討委員会は東京書籍にA評価としたのですが、幾つかポイントがございます。一点目が、先ほど説明いたしました性の多様性や、教科書のイラストそのものについても、様々な人種や車椅子のお子さんが登場するなど、多様性や共生というものを強く意識しているということ。二点目が、前回の採択でも話題になりました、子どもたちが何か悩みを持ったときの相談先の記載が前回以上に非常に充実していること。三点目が、毎時間提示されている問題やその時間の課題について、身近なイラストや写真から子どもに生活と関連させていたり、ある程度の記述欄も設けているなど問いの持たせ方が非常に上手なことから、どの先生でも学習を展開しやすいのではないかということです。

一方で、若干記述欄が多いのではないかという意見もございましたが、学校評価も高いと

いうことを鑑みますと、使いやすいということもわかりますので、今回はそちらのほうを重視したということもございます。

そうした複数の視点から、今回は東京書籍を検討委員会としてはAといたしました。

○教育長 ほかにいかがでしょうか。

[発言する者なし]

○教育長 ほかに御質問がなければ、採択に最もふさわしいと考える教科用図書について、各委員の御意見を確認したいと思います。

○年綱委員 私は東京書籍がよいと思いました。

理由は、表紙が新宿区で使用するのに合っているというのもあり、また、身近な人ということで、東京書籍の教科書には心の問題のスクールカウンセラーが入っていました。これはどこの学校にもいらっしゃるし、子どもたちが何かあったときにスクールカウンセラーを頼りやすくなるというところもあるので、とても良いと思いました。

また、けがについても、自分でどうしたらよいかということはいろいろな教科書にも書いてあるのですが、東京書籍の教科書にはそれが分かりやすく書かれており、非常に身近に感じることができるので、私は東京書籍が使いやすいのではないかと思います。

○古笛委員 私も随分悩んだのですが、最後は東京書籍を新宿区の子どもたちに使ってほしいなと思いました。

保健の授業は、先ほど御説明いただいたとおり、たっぷり時間があって、しっかりやるというわけではないので、触れたときに、目を通したときに、何か心に残ってもらえたらよいなと思っていました。その中で、性の問題について、体の性、心の性、好きになる性、表現したい性と、そういう表現をされていて、こう表現したら子どもたちにも分かってもらえるのかなと思いました。

また、先ほど検討委員会からも御報告いただいたとおり、不安や悩みの相談窓口というのを書いているところについても、非常に詳しく書いているので、そこが何かきっかけになったらなと思いました。

新宿区では、しんじゅくの教育で相談窓口のお知らせをしています。チラシだとなくなってしまうやすいのですが、教科書だとなくならないと思いますので、新宿区の子どもほっとラインも一緒に教科書につけていただけたら、もっとよくなったかもしれないと思います。

前回の採択のときにSDGsを非常に意識して光文書院を選んだので、今回、そこで悩んだのですが、最終的には、SDGsはかなり浸透してきて、どの教科書にもよく出てきたと

ということで、保健については、学校調査、それから検討委員会の高い評価であった東京書籍にしました。

○星野委員 まだ悩んでおります。

A・B評価だった光文書院、東京書籍、学研、大修館書店に関しまして、一とおりの分野ごとに見ていったのですが、各々のよいところ、少し足りないところがありまして、困っております。

また、先ほど御質問させていただきましたいわゆるスクリーンタイムやメディア接触に関しまして、一番記述が少ないと感じたのが東京書籍でした。ここがもう少しよければ、と思っています。

感染症に関しましては非常に詳しく載っていました。

がん教育に関しまして、がん予防10か条が前回も載っていたと思うのですが、これを子どもに教えてどうなるのかという部分もありますが、良し悪し含めて、現時点では私は光文書院にさせていただきます。もう一回教科書を全て読み合わせて、考えさせていただきたいと思います。

以上です。

○教育長 それでは、私から発言させていただきます。

私は、結論としては東京書籍ということになるのですが、先ほど質問したように、検討委員会、調査委員会、学校調査でも、東京書籍、光文書院、大修館書店の3者それぞれの評価が高かった形でした。大修館書店は心と体を一体として捉える意識といったこと、それから、光文書院は問題解決的な学習が展開できるような工夫をされており、教科書の中に、自ら考え、記入できる場所がありました。

東京書籍は、まず、表紙を見ますと、登場人物の多様性という観点で、新宿区らしいといえますか、そういった多様性を表紙に盛り込んでいます。その人物たちが教科書の中でも様々な場面で活躍しているところも載せており、子どもたちにとっても楽しく教科書に触れることができると思いました。

また、中身についても、性の多様性、障害者理解、悩み相談先の記載など、そのほか喫煙やがんについての記述もありました。先ほど年間4時間、8時間といった話もあり、より時間を取ってあげたいという気がするほど充実した内容となっていました。

さらに東京書籍は、4ステップ構成で、気づく、見つける、調べる、解決する、深める、伝える、まとめ、生かすといった流れで、課題に触れていくと無理なく発展的な学習にもつ

ながっていくような取組がされていますので、私としては東京書籍とさせていただきます。

それでは、他にご意見がなければ、採択の対象となる教科用図書の候補の絞り込みを行いたいと思います。保健については、本日の協議を踏まえ、東京書籍発行の教科用図書と、光文書院発行の教科用図書が、優れているという皆様のご意見であったと思います。この2種を採択の対象となる教科用図書の候補として考えるということによろしいでしょうか。

〔異議なしの発言〕

○教育長 それでは、そのように進めたいと思います。

以上で、本日の種目ごとの質疑と採択対象となる教科用図書の候補の絞り込みを終了いたします。

なお、冒頭申し上げましたが、本日、絞り込みを行った音楽、国語、書写、算数、保健の各種目につきましては、次回の教育委員会臨時会において、本日欠席の各委員からの御意見を伺いたいと思います。

本日の協議は終了いたしますが、事務局から何かございますでしょうか。

○教育調整課長 特にございません。

○教育長 ありがとうございます。

◎ 閉 会

○教育長 それでは、本日の教育委員会を閉会といたします。

ありがとうございました。

午後 4時00分閉会